

坂の上通信

令和四年三月十八日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

万感の思いを胸に～教師人生を語る～

学校の「顔」に インタビュー 拡大版

出会いと別れの季節と言われる春。今回は連載企画「学校の「顔」にインタビュー」を拡大し、この3月で定年退職を迎えられる先生方に現在の心境とこれまでの思い出をうかがった。

田中 伸二 校長先生
夢があるなら、小さく妥協せずに突き進め！



—現在の心境は。少し寂しいのと楽しみなのが入りまじった心境です。校長として、美鈴が丘高校のためにまだまだやるべきことがあったのではないかと感じています。特にここ数年はコロナ禍のために、行事など断念しなければならぬことも多かったのです。4月からは、第二の人生の始まりです。新しい自分を見つけるため、初心に戻って様々な事にチャレンジしたいと思っています。

—新任時代の思い出は。教師人生のスタートは86年4月。大阪府立の高校で、1年目から担任をしました。当時のその学校は、いわゆる「荒れている」学校で、ドラマで描かれるような喫煙、シンナー、暴力などが本当に見られ、大変な思いをしま

したが、そこでの経験によって少々の事では怯まない胆力と忍耐力が身についたように思っています。また生活が荒れている生徒には、必ず理由があることが分かりました。生徒を正しい道に導くためには目標を持って生活することが大切で、そのためには結局学習が一番大事だということ、それを気付かせることの大切さを学んだように思います。

—教師生活の中で大事にしてきたことは。学習の機会はみんな平等にあります。ただ夢の実現に繋げるためには、その機会を自ら最大限に生かし、努力することが大切です。そのことを伝え、頑張る力を自分で引き出せるようにすること、そのように導いていきたというところは、常に

美鈴の生徒に一番言いたいことは「妥協するな」ということです。自分の夢があるなら、

簡単にあきらめたり小さく妥協したりせずに、その夢に向けて突き進まなければいけません。夢に向けて頑張ることそのものが経験であり、学びです。結果がどうあれそのような経験を持つていけば、その次の挑戦に対して簡単にくじけず粘り強く取り組むことができます。そういう本心に「強い」人材を大学も社会も求めているのです。信念を持ち、胸を張って「頑張りました」と言える人になってください。



新宅 淳一 先生
学生には可塑性があり、何にでもなることができます。



栗栖 五代 先生
笑顔とありがとうの気持ちで前向きに生きていく。



—現在の心境は。まずホッとしました。同時に、仕事がもう終わりと思うと、寂しい気持ちもあります。

—新任時代の思い出は。2年間だけ野球部の顧問をしていました。練習試合で監督が不在だったため、ベンチからサインをお願いされました。2アウトランナー3塁からスクイズを出し、選手にタイムを求められたことを覚えていています。

—教師生活の中で大事にしてきたことは。「可塑性」という言葉を大事にしてきました。学生には可塑性があり、何にでも自由になれる変わることが出来ます。常に生徒の持つ可塑性に期待してました。

—美高生へ一言。その気になれば、実現できない夢なんてありません。肝心なのは諦めずにコツコツと努力し続けることです。Keep trying!必ず成功すると信じて、自分の道を進んで行かれることを願っています。Good Luck!

神島 嘉秀 先生



山口 善聖 先生



伊東 祐一郎 先生



—現在の心境は。退職ということがまだ頭になく、今も目の前の仕事をやっていままこの生活が続くのではないかと思っているくらい。あまり気持ちの変化はありません。

—新任時代の思い出は。野球部の顧問をしていて、若かったので外野ノックを毎日やっていました。部活動に邁進していましたね。

—教師生活の中で大事にしてきたことは。一言で言うと「本気を出せ」。いつも感じていたのですが、美高生は力を持っていて、本気で取り組めば結果は出ます。いつ本気を出すかが大事ですよ。

—現在の心境は。全然普通と変わりません。また実感が湧きません。

—新任時代の思い出は。文化祭の時、クラスの花壇を作ってくれました。また休日に、教師仲間とスキーやテニスをして楽しんだことも思い出です。

—教師生活の中で大事にしてきたことは。「英語は難しい、楽しいよ」という事を常に生徒に伝えたかったです。そしてこれからもそれを伝えていきたいですね。